



# 自分づくりの段階表(小学部)(中学部)(高等部本科)

澤田, 淳太郎

---

**(Citation)**

日本特殊教育学会第57回大会 自主シンポジウム10-4「自分づくりの段階表」の意義と可能性 : 教育実践と発達理論をつなぐ試みとして

**(Issue Date)**

2019-09-23

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90006356>



自分づくりの段階表 (小学部)

発達のみやす	自分づくりの段階	具体的な姿	めざす楽しむ姿	大切なこと・支援	
1歳	自我の萌芽期	・「～してから～する」という簡単な関係がわかる。次の楽しいことのためにがんばろうとする見通しの力が芽生える。 ・「自分のことは自分で」という生活の主人公になりたい心を持つ。	・「いいもの探し」をする。 ・共感を求め、共感の指さし等をする。 ・道具や仕事への憧れを持つ。	・発見の喜びが味わえるようにし、共感し、言葉を添える。 ・「いいもの探し」の中で、友だちへの憧れの心を育む。 ・遊びの楽しさを極限まで高め、楽しみの拠点となる場所を作る。	
1歳半	自我の誕生期	感情・意欲の育ち(自分)	・「～ではない～だ」という自分の思いを言葉や態度で表す。場面が変わるとなじむために「心の杖」を使う。 ・だだをこねるが、いくつかの選択肢を示すことで、気持ちの転換や立ち直りができる。	・人と関わって共感することの楽しさを味わう。 ・好きなことに援助を受けながら取り組む。	・「自分のもの」をはっきり区別する。 ・だだこねをするが、立ち直りのきっかけを探る姿を見守る。 ・心の高まりを友だちと共有し合う場を作る。
2歳	自我の拡大期	他者への気づき(自他の分化)	・「もっと、もっと」の心で、自分の欲しいものがあると強く要求する。 ・「～したら～」「～してから～」と言われて2つの関係がわかる。 ・何でも独り占めしたい、自分に最大、他に最小の配分をする。 ・「もうひとつ」「もうすぐ」「それだけ」等の対応や対比のための指示語、要求や指示のための対話が芽生える。	・一つの活動にじっくり取り組む。 ・「みため」活動で言葉を媒介に友だちや身近な人とイメージを共有する。 ・描いたり、作ったりしたものに意味をつける。 ・自分のしたいことを言葉やサインなどを使って要求する。	・好きな活動の時間を保障する。 ・イメージがあっている「みため・つもり」を大事にする。 ・欲張りな心、自分の世界を守ろうとする心を大切にしながら、「～したら～しよう」と提案し、少しでも我慢できたことを認める。
2歳半	自我の充実期	(他者の受容)	・小さい子が気に入り、自分のことができていなくても、お世話しようとする。 ・人が好きだが、様子をうかがっているだけで近寄らないことがある(はにかみ)。 ・自分で挑戦してできない時に、お願いすることができる。 ・進んで難しい課題に挑戦しようとする。 ・大きいものに価値を見つけ、大きい自分を求める。 ・自分との関係の強弱で、自我を抑制し始める。 ・道具を媒介に2人で組んだごっこ活動ができる。 ・最後まで取り組んでけじめをつけようとする。	・少し先のことを楽しみにする。 ・次にすべきことがわかり、見通しを持って活動することができはじめる。 ・自分でしたい遊びや活動を見つけて没頭する。 ・友だちと一緒にしたり、順番にしたり、分け合ったりする。	・我慢したことを認め、ほめる。 ・我慢できなくても「本当は我慢したかったんだよね」と心の中の葛藤を言葉にする。 ・大きい自分、賢い自分を選んだことをほめて励ます。 ・小さい子の世話ができるような場面を設定し、支援する。 ・共通の経験をする場面を大切に、多く提供できるようにする。
3歳	他者を受け入れようとする自我と自己主張の矛盾拡大の時期	もう一人の自分のできはじめ(自己の形成)	・新しくできるようになったことは、どこまでも自分でしようとする。 ・「上手にできるかな」と葛藤を引き起こし、苦手なことをより感じ取ってしまう。 ・見つめられている自分がわかり、引っ込み思案になる。 ・貸し、借り、順番、交代がみられる。約束、依頼、説得がわかる。 ・他人の持ち物を隠して、様子を伺う(悪ふざけ、関わりの誤学習)。	・共感してくれる大人の励ましを支えに、少し苦手なことにも挑戦してみようとする。 ・新しくできるようになった力を喜んで繰り返す。 ・先の楽しみを見通し、少しは我慢する。	・その子の得意なことや好きなことを丁寧に見とり、苦手意識から抜け出せるような支援をする。 ・苦手なこともあるけれど、得意なことあることに気づくことができるようにする。 ・できる、できない以外の評価軸を伝えていく。 ・次の活動の意欲につながるような「終わりよし」の場面を設定する。
3歳半	自制心の芽生えの時期	自我をコントロールできるもう一人の自分との対話のはじまり	・葛藤を乗り越えた安心感から、「からだ」「えがく」「つくる」「ことば」でも自分の表現が広がる。 ・汚い言葉、過去形、未来形を使い始める。 ・年下の子のできることを一緒にしてあげ、導いたり、嫌なことをされていても我慢できるようになったりする。 ・「～してから～する」の心を持つ。 ・大人になりたいと思う。	・年下やクラスの友だちのことを気遣い、行動しようとする。 ・心が安定した状態であり、少し先のことを楽しみにしながら今をがんばる。	・「はやく」等とせかせかせないで、じっくりと待つで開くようにする。 ・自分で最後までしたい願いを尊重しつつ、いつでも支えるようにする。 ・緊張しないで会話ができる雰囲気をつくる。 ・子どもの今のがんばりを尊重しながら、自分で「よりよい自分」を選べるように選択肢を作って提案する。
4歳半	自制心の形成期	自我をコントロールできる自分へ	・ことばが行動を調整する。 ・「～だけ～してみよう」と自分に言い聞かせる。 ・「～しようかな?でもしたくない」といった葛藤が生まれる。 ・一緒に遊ぶ友だちを求め、ごっこ遊びがさかんになり、役割を果たすことに喜びを見出す。 ・理由がわかり大人の評価に従って行動するようになるが、自分の理由を上回る理由を前にしたり、楽しみにしていた約束を破られたりすると、やり場のない怒りをぶつけてくる。	・じっくりと落ち着いて取り組む。 ・葛藤からの立ち直りも自分の心で、自分の力でやり遂げようとする。 ・「前はこうだったから、今度はこうしようと修正することができる。	・自分を評価してくれる大人の前でコチコチになる時、無理に話をさせようとせず、友だちと話す機会を作る。 ・自分で見直したり、修正したりしていけるように見守り、ヒントを与え、それができた時にしっかりほめる。 ・失敗の原因や次の手だてを一緒に考える。 ・がんばっている自分を認められるように、支援者が良いところやがんばっているところを伝える。
5歳半	自己形成視獲得の時期	自立から自律へ	・「小」とも「大」ともいえない中間の世界があることを認識し、「だんだん」「もう少し」等の調整ができるようになる。 ・周りの人の言動を自分なりに受け入れ、話し合ったり協力したりする。 ・「〇〇したらよくなるよ」といったアイデアを出す。 ・「もっと～したほうがよい。だからがんばろう」と意欲を持ち、目標や期待に応えようとする。	・多少のつまづきや失敗を乗り越えて自分でできたことへの満足感をもつ。 ・集団の中での自分の立場がわかり、役割を果たすことに喜びを感じる。 ・見通しを持って段取りをする。 ・ルールを守りながら、生き生きと学習や生活に取り組む。 ・友だち同士だけで、一つの世界を作って遊ぶ。教え合う。	・かなり先まで見通して準備を進められるように、具体的に予定等を伝える。 ・自分のよりよい姿をイメージできるように具体的に手本を示す。 ・友だちと協力しながら活動する場をできるだけ多く設定し、集団の楽しさに気づくようにする。 ・トラブルに対して、自分たちで解決するように促す。
7・8歳	社会的自我の誕生	系列化・社会性の時期	・相互に自己主張をしようが、関係の理解が一方的である。 ・自分を客観的に見ようとする力が芽生える。 ・自分の現実を受け入れていく葛藤が生まれる。	・主張の対立を上手く解決できるルール作りをする。 ・理想の自分像を作り始める。	・具体的な形でルールを示し、お互いの要求を相互に調節するようにする。 ・がんばりを認める。 ・自分で考えて「できた」という実感が持てるようにする。
9・10歳	自己客観視の芽生えの時期	抽象的思考のはじまり	・理想像をイメージしながら、「～だから～だ」と論拠のある考え方を持つ。 ・相手の立場を考えたり、自分自身を見直したりできる。	・その活動の価値が分かり、目的意識を持って取り組む。 ・自分の得手不得手を知り、自分なりに工夫や努力をする。	・得意なことはさらに伸ばし、苦手なことは支援を求めればよいことを伝える。 ・周りの人が期待していることを本人に伝え、自分自身がどうしたいか、考える場面や機会を設ける。

(資料6)

## 自分づくりの段階表(中学部)

▲気になる行動(発達している過程の姿)

発達のためやす	自分づくりの段階		具体的な姿	めざす楽しむ姿	大切なこと・支援
1歳	自我の萌芽期		・「～だ」という自分の要求や欲求を伝えようとする。模倣が始まる。	・いいものさがしをする。 ・共感を求め、共感の指さし等をする。	・「生活の主人公になりたい心」を尊重し、できた喜びを受け止める。
1歳半	自我の誕生期	感情・意欲の育ち(自分)	・「～ではない～だ」という自分の思いを言葉や態度で表す。心の杖を使う。 ▲だだこね、かみつぎ等	・人と関わり合って共感する楽しさを味わう。 ・好きなことに援助を受けながら取り組む。	・対の選択肢を提示し、「～ではない、～だ」という自分の気持ちを育てる。 ・心の安全基地(人や物等)を基に外界へ拡げる。
2歳	自我の拡大期	他者の意図への気づきの段階(自他の分化)	・「もっと!もっと!」の心で自分の欲しいものを強く要求する。 ・「～してから」と言われて、2つの関係が分かる。 ▲独り占め	・一つの活動にじっくり取り組む。 ・「みため」活動で、言葉を媒介に友だちや身近な人とイメージを共有する。 ・書いたり作ったりしたものに意味をつける。 ・自分でしたい遊びや活動を見つけて没頭する。(発展性がある)	・「みため」活動を大事にする。 ・好きな活動の時間を保障する。 ・「～したら～しようよ」と提案し、少しでも我慢できたことを認める。
2歳半	自我の充実期	(他者の受容)	・大きいー小さい等対比的認識が育ち、大きい自分を求める。 ▲引っ込み思案、はにかみ	・少し先のことを楽しみにする。	・我慢する等お兄さん、お姉さんとしての自分を選んだことを褒めて励ます。 ・小さい子の世話ができるような機会をつくる。
3歳	他者を受け入れようとする自我と自己主張の矛盾拡大の時期 ～葛藤～	もう一人の自分のできはじめ(自己の形成)	・大きくなった自分への誇りに対し、「でも上手にできるかな、失敗したら・・・」という葛藤が見られる。 ▲はにかみ、できるーできない等の2分的評価による葛藤からくる反抗(強がり)、悪ふざけ(ごまかして逃げる)、関わり方の誤学習	・共感してくれる大人の励ましを支えに、少し苦手なことにもチャレンジしてみようとする。 ・新しくできるようになった力を喜んで繰り返し、むしろ手伝いを拒む。 ・先の楽しみを見通し、少しは我慢する。	・次の活動の意欲につながるような終わりよしの場面を設定する。 ・「よりよい自分を選びたい心」を汲み取り、自分で気持ちを切り替えられるような状況を設定する。 ・できるーできない以外の評価軸を提示する。
3歳半	自制心の芽生えの時期 ～自己肯定感に支えられた自分で自分をコントロールする力～	自我をコントロールできるもう一人の自分との対話のはじまり	・「～がしたい、でも今は我慢しよう」という気持ちを持つ。 ・葛藤を乗り越えた安心感から、「からだ」「描く・作る」「ことば」などにおいて自らの表現が広がる。 ・他者からの評価が気になる。 ▲わざと汚い言葉を言う。	・心が安定した状態であり、少し先のことを楽しみにしながら今を頑張る。 ・幅広くいろいろなことに興味を持ち、生き生きと活動する。 ・年下の子の簡単なお世話をする。 ・友だちと仲良く楽しんで遊ぶ。	・「早く!」などせかさないうでじっくり待って本人なりの表現を引き出すようにする。 ・活動の意図を分かりやすく話し、目標に沿った具体的な評価をする。 ・少し先のことを話し、今の活動をがんばるように声かけをする。
4歳半	自制心の形成期 ～「できる・できない」の理解と葛藤～	自我をコントロールできる自分へ ～自己の形成に向かう時期～ ・外面的評価～他者を見つめたり相手のことを思ったりする気持ち ・内面的評価～他者からどんなふう評価されているか	・「～だけれども～しよう」と自らを励ます。チャレンジ精神が生まれる。 ・他者から与えられた価値ではなく、自分の思考をくぐった価値で自分をコントロールしようとする。 ▲相手を意識した「自己顕示」、「自己決定」が難しい。結果(成功・失敗)にこだわってしまう。	・じっくりと落ち着いて取り組む。 ・葛藤からの立ち直りも、自分の心や自分の力でやり遂げようとする。 ・前はこうだったから、今度はこうしようと修正することができる。 ・役割を果たすことに喜びを見いだす。 ・一緒に遊ぶ友だちを求める。	・自分で見直したり、修正したりしていけるように見守り、ヒントを与え、それができた時、しっかり褒める。 ・失敗の原因や次の手だてを一緒に考える。苦手な自分を意識することより、次の手立てを考えることを促す。
5歳半	自己形成視獲得の時期 ～自分や他者の変化を捉える視点が形成される時期。年少の他者を尊重しながら教え導く関係。年長の他者への憧れが芽生える～	自立から自律へ	・「もっと～したほうがよい。だからがんばろう」と意欲を持ち、目標や期待に応えようと努力する。 ・内面的思考において、道筋を立てて考え、表現することができる。 ・「小ー大」の対の関係に中間的世界があることを認識し、「だんだん」「もう少し」等の調整ができる。 ▲集団行動での逸脱、嘘の話	・多少のつまづきや失敗を乗り越えて、自分でできたことへの満足感をもつ。 ・集団の中での自分の立場が分かり役割を果たすことに喜びを持つ。 ・見通しを持って段取りをする。 ・決まりやルールを守りながら、生き生きと学習や生活に取り組む。 ・友だち同士だけで、一つの世界を作って遊ぶ。教え合う。	・かなり先まで見通して準備を進められるように具体的に予定等知らせる。 ・自分のよりよい姿をイメージできるように具体的に手本を示す。 ・友だちと協力しながら活動する場をできるだけ多く設定し、集団のすばらしさに気づけるようにする。 ・トラブルに対して、自分たちで解決するように促す。
7, 8歳	社会的自我の誕生 ～一面的な評価から多面的な評価への価値転換が行われる時期～	みんなの中の自分への意識が芽生える 系列化・社会性への時期 ・具体的な事象をもとに、筋道を作って思考する。 ・大人への多面的な見方	・目の前に起きる事柄を、具体的な方法で解決しようとする。 ・自分のことについて時間軸の中で捉え、「自分はこう変わってきた。これからはもっとこうしたい」と考えるようになる。	・自分の価値が認められたことで、自分に対して誇りを持つ。 ・より大きくなることを自己肯定し、「何でも一番がいい」から、新しい価値に気づきはじめる。	・自分で考えて判断できるよう指示するのではなく、「それでいいのかなあ」というような問いかけを大切にす。
9, 10歳	自己客観視の芽生えの時期 ～他者の視点に気づき自分の現実を受け入れていかなければならない葛藤の時期～	抽象的思考のはじまり	・理想像をイメージしながら「～だから～だ」と論拠のある考え方を持つ。 ・相手の立場を考えたり、自分自身を見直したりできる。	・その活動の価値が分かり、目的意識を持って取り組む。 ・自分の得手不得手を知り、自分なりに工夫や努力をする。	・一人の仲間として、理想像、価値観等について語り、指針を示していく。 ・得意なことはさらに伸ばし、苦手なことは支援を求めればよいことを知らせる。 ・集団の中で周りの人が期待していることを伝え、自分がどうしたいか考える場を設ける。

## 自分づくりの段階表（高等部本科）

発達 の めやす	自分づくりの段階		具体的な姿	めざす楽しむ姿	大切なこと・支援
1歳半	自我の誕生期	感情・意欲の育ち（自分）	・「～ではない、～だ」という自分の思いを言葉や態度で表す。	・支援を受けながら自分の好きなことに取り組む。	・思いを引き出すために2～3の具体的な選択肢を準備したり、声かけをしたりする。
2歳	自我の拡大期	他者への意図の気づきの段階（自他の分化）	・自分の思いを言動で強く伝えようとする。 ・試行錯誤する姿が見られ、自分の思いが強くなる。	・いろいろなことに組み込みながら好きなことを増やす。	・好きな活動を準備し、十分な時間をとる。 ・本人の伝えたいことをくみ取り、思いを言語化したり共感したりする。
2歳半	自我の充実期	（他者の受容）	・「～してから～する」の力が膨らむ	・少し先のことを楽しみにする。 ・自分でしたい活動を見つけて、没頭する。	・活動の中で、禁止や制禁が通じるようにする。 ・少し先の本人の好きな活動を具体的に話す。
3歳	他者を受け入れようとする自我と自己主張の矛盾拡大の時期～葛藤～	もう一人の自分のできはじめ（自己の形成）	・大きくなった自分への誇りに対し、「でも上手にできるかな」という葛藤がみられる。	・周囲の状況や評価を少し意識して、活動する。	・できた達成感が次への意欲につながるようにする。 ・いくつかの具体的な選択肢を準備する。
3歳半	自制心の芽生えの時期  ～自己肯定感に支えられた自分で自分をコントロールする力～	自我をコントロールできるもう一人の自分との対話のはじまり	・「～がしたい、でも今は我慢しよう」という気持ちを持つ。 ・葛藤を乗り越えた自信から自らの表現が広がる。 ・他者からの評価が気になる。	・周囲の状況や評価を意識して活動する。 ・少し先のことを楽しみにしながら今を頑張る。 ・年下の子とできることを一緒にしたり、友だちと楽しく活動したりする。	・活動の意図を分かりやすく話し、目標に沿った具体的な評価をする。 ・少し先のことを話し、今の活動をがんばるように声をかける。 ・本人の意思をじっくり聞きながら、その思いを活動に生かす。
4歳半	自制心の形成期  ～「できる・できない」の理解と葛藤～	自我をコントロールできる自分へ～自己の形成に向かう時期～  ・外面的評価～他者を見つめたり、相手のことを思ったりする気持ち ・内的評価～他者からどんなふうにか評価されているか	・「～だけ～しよう」という意志を持つ。 ・自分なりの思いを伝えて、活動に意味付けができる。 ・できるだけ自分でやろうとし、困ったら次の手だてを考えて行動することができる。 ・成功、失敗という結果にこだわり、うまくいかないと逃げてしまうこともある。	・他者からの評価を期待しながら意欲的に活動する。 ・場に応じて、自分の気持ちをコントロールしながら活動をする。 ・できた達成感から「またやろう」とし、認められて自己肯定感を高める。	・本人のがんばり（よさ）を認める ・自分が取り組む活動の目標や内容を文字や言葉にして確認する。 ・一緒に活動し、よさを伸ばして最後まで取り組むよう励ます。 ・活動をやり遂げるたびにその方法に確信をもつことができるようにし、賞賛する。 ・失敗の原因や次の手だてを一緒に考える。（苦手な自分を意識し、引っ込み思案にならないようにする。）
5歳半	自己形成視獲得の時期  ～自分や他者の変化を捉える視点が形成される時期。年少の他者を尊重しながら教え導く関係。年長の他者への憧れが芽生える～	自立から自律へ ・「さっき～今～こんど」時間の軸の中で自分をとらえる ・やればできるという期待を持って取り組む ・将来を見通して今を頑張る ・現在の自分と過去の自分、将来の自分との対話が始まる ・過去の自分と比べて大きくなった今を誇りに思う	・「もっと～したほうがよい。だからがんばろう」と意欲を持ち、目標や期待に応えようと努力する。 ・経験をもとに見通しを持ちながら自分の考えをまとめる。 ・たとえ自分の意に添わなくても、場や状況に応じて活動を続けることができる。 ・物事には「中間」があることがわかる。 ・「だんだんと変化してきた」自分に手応えを感じる。（自己認識） ・指示待ちや経験依存から自発性が開花しはじめる。（生活面）	・集団の中での自分の立場が分かり、役割を果たすことに喜びを持つ。 ・かなり先のことも楽しみにすることができ、見通しを持って活動する。 ・集団の中の一員としての自覚を持ち、周りの状況に合わせて活動をする。 ・「さっきはこうやってうまくいかなかったけれど、今度はこうやってみよう」と考えることができる。 ・自分と仲間との間にルールを取り込んでいく。	・本人の考えをじっくり聞いて、待ったり助言したりする。 ・集団の中で、役割を持って活動する場を設定する。 ・かなり先まで見通した段取りが組めるように具体的に予定等を知らせる。 ・自分のよりよい姿をイメージできるように具体的に手本を示す。 ・集団の中で友達と関わりながら活動する場をできるだけ多く設定する。 ・振り返りの場を設定し、変わってきた自分のよさに誇りがもてるようにする。 ・こうなりたいという思いを認め、夢を膨らましていく。
7,8歳	社会的自我の誕生 ～一面的な評価から、多面的な評価への価値転換が行われる時期～	みんなの中の自分への意識が芽生える 系列化・社会性の時期  ・具体的な事象もとに筋道をつくって思考する ・大人への多面的な見方へ	・“今”の生活の具体的な体験や事実を手がかりにして考える。 ・みんなの中で、自分の独自性やねうちを確かめようとする。 ・トラブルの責任は、どちらか一方にあると考えがち。 ・現実と理想の自己像のギャップから葛藤が起こる。（揺れる思い）	・ルールがわかり、助言を受けながら自分の行動を変えようとする。 ・自分の独自性を発見し、「ちょっと大人になった」喜びを感じる。 ・「一緒なこともあるし、違うこともある」と多面的な自己理解ができるようになる。 ・自分の得意なことに気づき始める。	・具体的な助言をしたり、選択肢を提示したりする。 ・価値の転換への働きかけをする。「やさしい一番もあるのだよ」「ゆっくりの一番も・・・」等。 ・「好きなもの・こと」をつくっていく過程を大切にす。 ・公正なルールを示していく一方で、価値の自由度も認める。 ・多面的な自己理解を促したり、多面的な見方のよさに気づくようにする。
9,10歳	自己客観視の芽生えの時期  ～他者の視線に気づき、自分の現実を受け入れていかなければならない葛藤の時期～	抽象的思考のはじまり ・具体的事象の概念化・抽象化 一般化して、記号へ置き換える  ・ことば概念の形成 書きことばの世界へ	・理想像をイメージしながら「～だから～だ」と論拠のある考え方を持つ。 ・相手の立場を考えたり、自分自身を見直したりできる。 ・「もし自分だったら」「もし〇〇の立場だったら」と他者の立場に自分を置き換えて考えようとする。 ・周りの人の考えを受け入れながら、自分の性格や態度を捉えるようになる。	・その活動の意味が分かり、目的意識を持って取り組む。 ・自分の得手不得手を知り、工夫や努力をする。 ・助け合う友人に友情を感じる。 ・他者の価値観を自分の価値観に取り入れられたり、他者の言動を参考にしようとしたりする。 ・仲間と相談し、計画を立てたり問題解決に向かったりしようとする。	・できないことや苦手なことは支援を求めてもいいことを伝える。 ・「自分たち」という一体感や「我々世界」のヨコの関係を築いていけるようにしていく。 ・タテのつながりとして、自己形成のモデルを提示する。 ・一面的な自分への気づきから、多面的な自分への気づきを促していく。 ・仲間とのつながりを意識できるような場を設定する。
11,12歳	「集团的自己」の誕生 ギャングエイジ	形式的操作期  ・形式的平等から実質的平等へ	・友人関係において、共通理解や共通の性格があることの「同質性」を重視するようになる。	・本当の友達（自分の悪いところも言ってくれる、喧嘩もできるなど、お互いの本当の思いを表現できる関係）を心から求め、関係を築こうとしている。 ・自分のこと、友達のこと、周囲の状況を総合的に判断しながら、少し大きな集団や社会の中で、自分のやるべきことをしようとする。	・“違い”を乗り越えた“同じ”を発見していく視点を大切にす。
14～ 16,17歳	「価値的自立」のはじまり	・アイデンティティーの模索 ・若者文化	・大人社会の価値ではない、自分たちの価値を創造しようとする。	・自己発見に喜びを感じる。 ・自分なりの価値や思いを持って主張し、行動につなげる。	・一人の仲間として、理想像、価値観、目的意識等について語る。 ・自己の内面のよき変化に気づき、未来のよき自分へと変化していく自信につながるようにする。

自分づくりの段階表 (高等部専攻科)

発達のため やす	自分づくりの段階		具体的な姿	めざす楽しむ姿	大切なこと・支援
2歳	自我の拡大期	他者へ意図の気づき段階 (自他の分化)	・自分の思いを言動で強く伝えようとする。 ・試行錯誤しながらも自分の思いが強くなる。	・いろいろなことに取り組みながら好きなことを増やす。	・好きな活動を準備し、時間を保障する。 ・本人の伝えたいことをくみ取る。
2歳半	自我の充実期	(他者の受容)	・大きいー小さい等対比的認識が育ち、大きい自分を求める。 ・～してから～するの力が膨らむ	・少し先のことを楽しみにする。 ・自分でしたい活動を見つけて、没頭する。(発展性がある)	・遊びの中で、禁止や制しを通じるようにする。 ・少し先の本人の好きな活動を具体的に話す。 ・失敗しても頑張ったと応援する。
3歳	他者を受け入れようとする自我と自己主張の矛盾拡大の時期 ～葛藤～	もう一人の自分のできはじめ (自己の形成)	・大きくなった自分への誇りに対し、「でも上手にできるかな」という葛藤がみられる。	・周囲の状況や評価を少しは意識して、自分なりに活動する。	・「やったあ」「もう一回」という次への意欲につながるようになる。 ・いくつかの具体的な選択肢を準備する。 ・自己肯定感・達成感の積み上げをしていく。
3歳半	自制心の芽生えの時期  ～自己肯定感に支えられた自分で自分をコントロールする力～	自我をコントロールできるもう一人の自分との対話のはじまり	・「～がしたい、でも今は我慢しよう」という気持ちを持つ。 ・葛藤を乗り越えた安心感から自らの表現が広がる。 ・他者からの評価が気になる。	・周囲の状況や評価を意識して、自分なりに活動する。 ・心が安定した状態であり、少し先のことを楽しみにしながら今を頑張る。 ・年下の子の簡単なお世話をしたり、友だちと楽しく活動したりする。	・活動の意図を分かりやすく話し、目標に沿った具体的な評価をする。 ・少し先のことを話し、今の活動をがんばるように声をかける。 ・本人の意思を大事にしなが、その思いを活動に生かす。
4歳半	自制心の形成期  ～「できる・できない」の理解と葛藤～	自我をコントロールできる自分へ ～自己の形成に向かう時期～  ・外面的評価～他者を見つめたり、相手のことを思う気持ち ・内面的評価～他者からどんなふう に評価されているか	・「～だけど～しよう」という意志を持つ。 ・自分なりの思いを伝えて、活動に意味付けができる。 ・できるだけ自分でやろうとし、困ったら次の手だてを考えて行動することができる。 ・プライドを支えられて、自分をコントロールすることができる。 ・成功、失敗という結果にこだわり、うまくいかないと逃げてしまうこともある。	・他者からの評価を期待しながら意欲的に活動する。 ・場に応じて、自分の気持ちをコントロールしながら活動をする。 ・単に「できた」ではなく、「自分でできた」「自分で考えてできた」が自信になって活動する。 ・できた達成感から「またやろう」とし、認められて自己肯定感を高める。	・本人なりのがんばり(よさ)を認める ・自分が取り組む活動の目標や内容を文字や言葉にして確認する。 ・一緒に活動し、よさを伸ばして最後まで取り組むよう励ます。 ・活動をやり遂げるたびにその方法に確信をもたせ、賞賛する。 ・失敗の原因や次の手だてを一緒に考える。(苦手な自分を意識し、引込み思案にならないように) ・評価の軸を多様にする。
5歳半	自己形成視獲得の時期  ～自分や他者の変化を捉える視点が形成される時期。年少の他者を尊重しながら教え導く関係。年長の他者への憧れが芽生える～	自立から自律へ ・「さっきー今ーこんど」時間の軸の中で自分をとらえる。 ・やればできるという期待を持って取り組む。 ・将来を見通して今を頑張る ・現在の自分と過去の自分、将来の自分との対話が始まる ・過去の自分と比べて大きくなった今を誇りに思う。 ・みんなの中の自分への意識が芽生える。	・「もっと～したほうがよい。だからがんばろう」と意欲を持ち、目標や期待に応えようと努力する。 ・経験をもとに見通しを持ちながら自分の考えをまとめる。 ・たとえ自分の意に添わなくても、場や状況に応じて活動が続けることができる。 ・真ん中がわかる。 ・「だんだんと変化してきた」自分に手応えを感じる(自己認識)。 ・指示待ちや経験依存から自発性が開花しはじめる(生活面)。	・集団の中での自分の立場が分かり役割を果たすことに喜びを持つ。 ・かなり先のことで楽しみをすることができ、見通しを持って段取りをとる。 ・集団の中の一員としての自覚を持ち、周囲の状況に合わせながら活動をする。 ・自分自身の変化を捉えて自己肯定感を高める。 ・「さっきはこうやってうまくいかなかったけれど、今度はこうやってみよう」と考えることができる。 ・自分と仲間との間にルールを取り込んでいく。	・考えをじっくり聞いて、待つ。 ・集団の中で、役割を持って活動する場を設定する。 ・かなり先まで見通した段取りが組めるように具体的に予定等を知らせる。 ・自分のよりよい姿をイメージできるように具体的に手本を示す。 ・集団の中で友達と関わりながら活動する場をできるだけ多く設定する。 ・振り返りの場を設定し、変わってきた自分のよさに誇りがもてるようにする。 ・こうなりたいという思いを認め、夢を膨らましていく。
7,8歳	社会的自我の誕生 ～一面的な評価から、多面的な評価への価値転換が行われる時期～	系列化・社会性の時期  ・具体的な事象もとに筋道をつくって思考する ・大人への多面的な見方へ	・“今”の生活の具体的な体験や事実を手がかりにして考える。 ・みんなの中で、自分の独自性やねうちを確かめたい。 ・トラブルの責任は、どちらか一方にあると考えがち。 ・現実と理想の自己像のギャップから葛藤が起こる。(揺れる思い)	・より大きくなることを自己肯定し、「なんでも一番がいい」から、新しい価値に気づきはじめる。 ・自分の独自性を発見し、「ちょっと大人になった」喜びを感じる。 ・「いっしょだけど違う、でもいっしょ」と多面的な自己理解ができるようになる。	・価値の転換への働きかけをする。「やさしい一番もあるのだよ」「ゆっくりの一番も・・・」等。 ・自分の「とりえ」を確信できるように支援する。 ・「好きなもの・こと」をつくっていく過程を大切に。 ・公正なルールを示していく一方で、価値の自由度も認める。 ・多面的な自己理解を促したり、多面的な見方のよさに気づくようにする。
9,10歳	自己客観視の芽生えの時期  ～他者の視線に気づき、自分の現実を受け入れていかなければならない葛藤の時期～	抽象的思考のはじまり ・具体的事象の概念化・抽象化 一般化して、記号へ置き換える  ・ことば概念の形成 書きことばの世界へ	・理想像をイメージしながら「～だから～だ」と論拠のある考えを持つ。 ・相手の立場を考えたり、自分自身を見直したりできる。 ・「もし自分だったら」「もし○○の立場だったら」と他者の立場に自分を置き換えて考えることもする。 ・親との間に心理的距離をとり始める。 ・他者の視点をくぐって、自分の性格や態度を捉えるようになる。	・その活動の価値が分かり、目的意識を持って取り組む。 ・自分の得手不得手を知り、自分なりに工夫や努力をする。 ・助け合う友人に友情を感じる。 ・他者の価値観を自分の価値観に取り入れれたり、他者の生き方や生き様すら自分の生き方に取り入れようとする。 ・仲間づくりが楽しめる。 ・段取りや計画を立てての労働が可能となる。	・手本や指針になるような言動に心がける。 ・「自分たち」という一体感や「我々世界」のヨコの関係を築いていけるようにしていく。 ・タテのつながりとして、自己形成のモデルを提示する。 ・一面的な自分への気づきから、多面的な自分への気づきを促していく。
11,12歳	・「集団的自己」の誕生 ギャングエイジ	形式的操作期  ・形式的平等から実質的平等へ	・友人関係において、共通理解や共通の性格があることの「同質性」が重視される。	・本当の友達(自分の悪いところも言ってくれ、喧嘩もできるなど、お互いの本当の思いを表現できる関係)を心から求めている。	・“違い”を乗り越えた“同じ”を発見していく視点を大切に する。
14～ 16,17歳	「価値的自立」のはじまり	・アイデンティティの模索 ・若者文化	・大人社会の価値ではない、自分たちの価値を創造しようとする。	・自己発見に喜びを感じる。 ・自分なりの価値や思いをもって主張し、行動につなげる。	・一人の仲間として、理想像、価値観、目的意識等について語る。 ・自己の内面のよき変化に気づき、未来のよき自分へと変化していく自信につながるようにする。